

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要なゴール番号	SDGs ゴール番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R3年度予算要求に向けた施策の方向性				
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)						職位	人数		
II-1-(1)-③ 子育て・高齢世帯などが混在するコミュニティづくり	1	⑪	⑪	市営住宅整備事業	住宅整備課・住宅管理課	本市では現在、約33,000戸の市営住宅を管理しており、老朽化の著しい市営住宅の集約建替や既存ストックの有効活用を図りながら、住宅に困窮する低所得者及び高齢者、障害者、子育て世帯等に住宅を供給することにより、多世代共生の住まいづくりを推進する。 市営住宅のバリアフリー住戸の供給率(累計) ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	35%	36%	42%(R7年度)	1,868,185	1,997,715	1,145,199	108,150	課長	0.60人	順調	バリアフリー住戸の供給率目標を達成することができたので、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 バリアフリー住戸の目標を達成することができたので「順調」と判断。 【課題】 市営住宅のマネジメント実行計画に基づき、既存市営住宅の改善により住宅のバリアフリー化を進めていく必要がある。	市営住宅のマネジメント実行計画に基づき、市営住宅のバリアフリー化について、引き続き計画的に取り組んでいく。			
実績	35%	36%	達成率	100.0%	100.0%	係長	2.70人	職員	9.90人															
達成率	100.0%	100.0%																						
II-1-(1)-④ 居住支援の充実	2	⑪	⑪	市営住宅整備・管理事業	住宅整備課・住宅管理課	市営住宅のバリアフリー住戸の供給率(累計) ※中間目標改訂(R2年度目標設定時)	目標	35%	36%	42%(R7年度)	2,394,981	2,524,511	1,580,099	245,400	課長	2.10人	順調	バリアフリー住戸の供給率目標を達成することができた。市営住宅に入居する単身高齢者が抱える悩みの聞き取りや相談先の助言などを行い孤立死や引きこもりを防止するため、65歳以上単身高齢者を対象としたふれあい巡回員による訪問を行った。令和元年度は、対象者9,730人に対して、延べ24,788回訪問し、44,911件の相談等に応じた。これらについて概ね計画どおり事業を実施したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市営住宅のバリアフリー住戸の供給率について、バリアフリー住戸の供給率目標を達成することができた。 ふれあい巡回員の活動については、ふれあい巡回員による65歳以上の単身高齢者への訪問等により、高齢者への見守りや悩みの相談等を行うことができた。 優良賃貸住宅供給については、特優賃及び高優賃の入居率が、共に目標の達成率が100%を超えており、以上のことより総合的に「順調」と判断。 【課題】 市営住宅のマネジメント実行計画と整合を図る必要がある。	市営住宅のマネジメント実行計画に基づき、市営住宅のバリアフリー化について、引き続き計画的に取り組んでいく。 ふれあい巡回員の活動については、増加する単身高齢者へきめ細かい見守りを実施するため、対象人員の増加状況を踏まえ、令和2年度にふれあい巡回員を1人増員した。 令和3年度は、令和2年度の増員によるふれあい巡回員の活動結果を検証し、事業に活かしていく。 優良賃貸住宅供給については、前年度に引き続き、制度のPRや適正管理を行っていく。			
						実績	35%	36%	達成率	100.0%					100.0%	係長						6.30人	職員	21.10人
						達成率	100.0%	100.0%																
	3	⑪	⑪	優良賃貸住宅供給支援事業	住宅計画課	一定の基準を満たす良質な賃貸住宅(特定優良賃貸住宅、高齢者向け優良賃貸住宅)への入居者に対して家賃補助を行うことにより、入居を促進し、入居者の居住の安定確保を図る。 特優賃及び高優賃の入居率	目標	88%	88%	80%以上(毎年度)	174,729	169,169	166,061	11,075	課長	0.05人	順調	実績が目標を上回っているため「順調」と判断。	職員	1.00人				
						実績	90.5%	89.4%	達成率	102.8%					101.6%	係長					0.30人			
						達成率	102.8%	101.6%																
4	⑪	⑪	民間建築物耐震改修費等補助事業	建築指導課	民間建築物の耐震化を促進するため、一定の要件に該当する木造住宅やマンション、多数の市民が利用する特定建築物等の耐震化及び危険なブロック塀等の除却に要する費用の一部を補助する。 民間建築物を対象とした耐震改修費等補助実績	目標	50件	50件	50件(毎年度)	152,130	61,499	78,077	9,700	課長	0.05人	順調	令和元年度の補助事業及び耐震化に関する問合せ・相談回数は286回と高い水準を維持しているが、補助実績件数は26件で目標の52%に留まった。 ただし、平成30年度に創設した、危険なブロック塀等の除却費補助は、令和元年度の相談件数471件と市民の関心は高く、危険なブロック塀等の除却費補助は予定件数80件に対して申請件数69件と約9割を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 建築物の耐震改修費等の補助実績は目標を下回ったものの、H30年度に危険なブロック塀等の除却費補助制度を創設し、地震の際のブロック塀等の倒壊による被害を未然に防ぎ、安全・安心な街づくりに引き続き寄与したため、「順調」と判断。 【課題】 各地で発生する大規模な地震による被害状況により、市民の耐震化に関する関心は高いものの、建築物の補助申請には繋がっていない。	今後も引き続き、市民や事業者に対する各種説明会・講習会等での事業PRや住宅情報誌などへの情報掲載、平成28年度より実施している固定資産税納税通知書への啓発チラシの封入などを通じて、効果的な普及啓発活動を行っていくとともに、SNSを活用した補助制度の周知などを行う。				
					実績	29件	26件	達成率	58.0%					52.0%	係長						0.35人	職員	0.75人	
					達成率	58.0%	52.0%																	

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主たる 目標 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
Ⅲ-1-(1)- ① 快適な住 環境の形 成	5	⑪	⑪	狭あい道路拡幅整 備事業	空き 家活 用推 進室	幅の狭い市道に面した 建築物の建て替えなどを する際に、道路幅を広げ ることを促すことによ り、防災性に優れた安全 な住宅市街地の形成と居 住環境の向上を図る。	狭あい道路の拡幅整 備完了件数(累計)	—	目標 80 件 実績 80 件 達成率 100.0 %	80 件 81 件 101.3 %	80件 (R1年 度)	13,100	3,225	12,608	12,075	課長 0.05 人 係長 0.40 人 職員 1.00 人	順調	当初の目標数を達成してお り、安全な市街地形成と居住空 間の向上を図るとした事業の目 的は達成されているため「順 調」と判断。			
	6	⑪	⑪	空き家等活用推進 事業	空き 家活 用推 進室	近年増加傾向にある空 き家に対し、市民の安 全・安心を確保するた め、空き家等発生未 然防止から、流通・活 用等の促進に至るま で、「空き家等対策計 画」に基づき総合 的な空き家対策を推 進する。	空き家に関する相談 件数	—	目標 — 実績 — 達成率 —	300 件 495 件 165.0 %	300件 (毎年度)	7,000	6,810	—	6,400	課長 0.10 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人	大変 順調	【評価理由】 「狭あい道路拡幅整備事業」 については、年度目標数を達成 しており、着実に安全な市街地 形成や居住環境の向上が進めら れている。 「空き家等活用推進事業」に ついては、空き家の予防や管 理・活用等の普及啓発を推進す ることで、快適な住環境の形成 に寄与している。 「老朽空き家対策」について は、目標を達成しているため、 総合的に「大変順調」と判断。			
	7	⑪	⑪	老朽空き家等対策 推進事業	監察 指導 課	人口減少や高齢化等が 進む本市においては、今 後も、適正に管理され ず、周辺の居住環境に悪 影響を及ぼす老朽空き家 等の増加が続くことが見 込まれることから、平成 28年に制定した「空家等 の適切な管理に関する 条例」及び同年策定した 「空家等対策計画」に基 づき、老朽空き家等対策 の強化を図る。	老朽空き家に関する 相談・通報件数	167件 (H26年 度)	目標 300 件 実績 476 件 達成率 158.7 %	300 件 703 件 234.3 %	300件 (毎年度)	39,643	3,290	5,534	23,450	課長 0.30 人 係長 0.50 人 職員 2.00 人	大変 順調	効果的な普及活動により、相 談・通報件数(703件)が、目標 (300件)を大幅に上回り達成す ることができたため「大変順 調」と判断。			
	8	⑪	⑪	老朽空き家等除却 促進事業	監察 指導 課	倒壊や部材の落下のお それがあるなど危険な空 き家等の除却を促進す るため、家屋の除却に要 する費用の一部を補助す ることにより、市民の安全 で安心な居住環境の形 成を図る。	老朽空き家等除却促 進事業の累計実施件 数	202戸 (H26年 度)	目標 680 戸 実績 1,468 戸 達成率 215.9 %	1,630 戸 (H27~ R1年度) 1,861 戸 114.2 %	1,630戸 (H27~ R1年度)	100,000	99,544	98,484	23,450	課長 0.30 人 係長 0.50 人 職員 2.00 人	順調	当事業に対する市民からの関 心が高く、除却戸数(1,861戸) が目標(1,630戸)を上回り達成 することができたため「順調」 と判断。			

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な目標番号	SDGs 目標番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性				
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
Ⅲ-1-(1)-② 定住促進や地域活性化のための環境づくり	9	⑪	⑪	住むなら北九州 定住・移住推進の取組み	住宅計画課	本市への定住・移住を推進するため、市外から移住する世帯等に対し、一定の要件を満たす街なかの住宅を取得又は賃借する費用の一部を補助する。	賃貸住宅補助世帯数 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	47世帯(H27~H28年度)	目標 120世帯	120世帯	120世帯	120世帯	120世帯	102,300	58,904	54,216	22,875	課長	0.25人	順調	賃貸住宅補助世帯数、住宅取得補助世帯数では、概ね目標の90%を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 定住・移住に一定の成果が出ているため「順調」と判断。 【課題】 認知度向上のためのPRを引き続き実施していく必要がある。本市への定住・移住をより一層推進するため、制度の拡充や要件の緩和等を検討する必要がある。	社会動態プラスの達成に向けて、本市への定住・移住を一層推進するため、引き続き制度の拡充や要件の緩和等といった定住促進のための環境づくりを進める。
							住宅取得補助世帯数 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	164世帯(H27~H28年度)	目標 100世帯	140世帯	100世帯	100世帯	100世帯	100世帯	100世帯	100世帯	100世帯	100世帯	100世帯					
Ⅲ-1-(2)-② 風格のある都市景観づくり	10	⑪	⑪	魅力ある街並み形成	都市景観課	本事業は、個性的で魅力的な都市景観の形成を目指し、景観アドバイザー制度の活用による公共施設や大型民間施設等の魅力向上を図り、市民が誇りと愛着を持てる街並みづくりを推進する。	個性的で魅力的な都市景観の向上(景観が良くなったと思う人の割合)	70%(H26年度)	目標 70%	70%	70%	70%	70%	1,558	919	675	5,575	課長	0.05人	順調	景観アドバイザー制度が概ね活用されており、市民アンケート結果も目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 個性的で魅力的な都市景観の向上(景観が良くなったと思う人の割合)が目標値を達成しており、本市の魅力ある街並み形成に寄与していると認められる。さらに、小倉都心地区の夜間景観が良いと感じている人の割合も前年度より増加していることから、総合して「順調」と判断。 【課題】 景観アドバイザー制度のさらなる周知・活用を図るとともに、民間事業者の協力と小倉あかり倶楽部の活用を図り、都市景観の向上に努める。	引き続き、景観アドバイザー制度の周知・活用を図ること、個性的で魅力的な都市景観の形成を目指し、地域特性を活かした風格のある景観づくりを推進する。また、夜間景観の魅力創出については、小倉あかり倶楽部を活用し、民間事業者の意識向上と機運を醸成する取組を行い、魅力的で風格のある景観づくりを推進する。
							小倉あかり倶楽部の登録件数は伸びなかったが、公共施設の照明整備が進んだことにより、結果として、小倉都心地区の夜間景観が良いと感じている人の割合が前年度より増加したため、「順調」と判断。	48.9%(H29年度)	目標 前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超					
	11	⑪	⑪	小倉都心地区夜間景観魅力アップ事業	都市景観課	地域の民間事業者等の夜間景観づくりへの意識向上、参画への機運を醸成するため、小倉あかり倶楽部の運用による民間の参画を促進する取組を実施するもの。	小倉都心地区の夜間景観が良いと感じている人の割合	48.9%(H29年度)	目標 前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	前年度(57.6%)超	2,000	1,067	—	4,400	課長	0.10人	順調	小倉あかり倶楽部の登録件数は伸びなかったが、公共施設の照明整備が進んだことにより、結果として、小倉都心地区の夜間景観が良いと感じている人の割合が前年度より増加したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 個性的で魅力的な都市景観の向上(景観が良くなったと思う人の割合)が目標値を達成しており、本市の魅力ある街並み形成に寄与していると認められる。さらに、小倉都心地区の夜間景観が良いと感じている人の割合も前年度より増加していることから、総合して「順調」と判断。 【課題】 景観アドバイザー制度のさらなる周知・活用を図るとともに、民間事業者の協力と小倉あかり倶楽部の活用を図り、都市景観の向上に努める。	引き続き、景観アドバイザー制度の周知・活用を図ること、個性的で魅力的な都市景観の形成を目指し、地域特性を活かした風格のある景観づくりを推進する。また、夜間景観の魅力創出については、小倉あかり倶楽部を活用し、民間事業者の意識向上と機運を醸成する取組を行い、魅力的で風格のある景観づくりを推進する。

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要な目標番号	SDGs 目標番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性		
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題	
IV-1-(3)-③ 人材供給、住環境整備などの立地支援	12	⑪	⑪	住むなら北九州 定住・移住推進の取組み	住宅計画課	本市への定住・移住を推進するため、市外から移住する世帯等に対し、一定の要件を満たす街なかの住宅を取得又は賃借する費用の一部を補助する。	賃貸住宅補助世帯数	47世帯 (H27~H28年度)	目標	120世帯	120世帯	120世帯 (R2年度以降毎年度)	102,300	58,904	54,216	22,875	課長	0.25人	順調	賃貸住宅補助世帯数、住宅取得補助世帯数では、概ね目標の90%を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 定住・移住に一定の成果が出ているため「順調」と判断。 【課題】 認知度向上のためのPRを引き続き実施していく必要がある。本市への定住・移住をより一層推進するため、制度の拡充や要件の緩和等を検討する必要がある。	社会動態プラスの達成に向けて、本市への定住・移住を一層推進するため、住宅施策の面から企業の立地を支援し、市内定住を促進する。
							※中期目標改訂 (R2年度目標設定時)	実績	114世帯	114世帯	達成率												
IV-2-(2)-① 高齢者を中心とした健康・生活支援ビジネスの推進	13	⑪	⑧ ⑪	住まいの安全安心・流通促進事業	空き活用推進室	耐震性能を有する(又は耐震改修工事を行う)既存住宅を取得・賃借又は相続(生前贈与含む)して自ら居住するために実施する、エコや子育て・高齢化対応に資する改修工事に対してその費用の一部を補助する。	エコや子育て・高齢化対応にかかる改修工事の実施件数	—	目標	130件	130件	100件 (毎年度)	30,000	8,529	6,456	10,900	課長	0.10人	遅れ	制度周知・PRは行ったが、補助対象者・補助対象工事に当てはまるものが少なく、リフォームの実施件数が目標件数に届かなかったため「遅れ」と判断。	遅れ	【評価理由】 リフォームの実施件数が目標件数に届かなかったため「遅れ」と判断。 【課題】 補助対象者・補助対象工事などについて見直しを行い、制度内容の拡充を行う必要がある。	令和2年度より、制度内容を拡充したことで申請件数が増加している。引き続き、制度周知・PRを行い制度の普及を図る。
							※中期目標改訂 (R2年度目標設定時)	実績	29件	32件	達成率												

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要な 目標 番号	SDGs 目標 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度			R3年度予算要求に向けた 施策の方向性				
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
V-1-(1)- ① 生活支援 施設の立 地誘導や 「街なか」居住 の促進	14	⑪	⑪	住宅市街地総合整備 事業	まちなか 再生 支援 課	住宅市街地整備計画を 策定し、この計画に位置 づけられた事業を行う事 業者に対し、市街地住宅 等の調査設計計画費や共 同施設整備費等の一部を 補助し、事業の進捗を図 る。	住宅市街地総合整備 事業における住宅供 給支援戸数(累積)	1,760戸 (H26年 度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	2,271戸 (R4年度)	81,339	96,769	121,373	6,900	課長 0.10人	順調 工事が完了したため、「順 調」と判断。	順調 【評価理由】 「折尾地区総合整備事業」に ついては、令和7年度の事業完了 に向け、着実に事業を推進でき ている。 「災害に強くコンパクトなま ちづくり推進事業」について は、区域区分見直し基準を策定 し、本基準を基に八幡東区の見 直し候補地を選定したため、総 合的に考え、「順調」と判断。 【課題】 「災害に強くコンパクトなま ちづくり推進事業」について は、本事業の情報を広く発信す るとともに、見直し候補地内の 住民や地権者等に対して丁寧な 説明を行う必要がある。	「住宅市街地総合整備事業」 については、民間の建設資金を 活用し、良好な市街地居住環境 の整備を行うもので、その一部 を助成することで良質な住宅ス トックを形成するものであるこ とから、引き続き事業の推進を 図る。 「折尾地区総合整備事業」に ついては、今後も、令和3年度の 短絡線高架切替及び令和4年度 の連続立体交差事業の完了に向 けて、着実に推進を図る。 「災害に強くコンパクトなま ちづくり推進事業」について は、見直し候補地内の住民や土 地所有者等の意見を丁寧に聴い たうえで、都市計画原案の作成 を行う。				
	15	⑪	⑨ ⑪	折尾地区総合整備 事業	折尾 総合 整備 事務 所	折尾駅周辺の鉄道の立 体化により踏切を除去す るとともに、一帯の幹線 道路整備や鉄道跡地を含 む土地区画整理事業等の 面整備を総合的に実施す ることにより、交通渋滞 の解消、住環境の改善、 まちの一体化、回遊性の 向上などを図り、折尾地 区を魅力ある学園都市と して、また、広域交通拠 点として整備する。	学園都市にふさわし い地域拠点の形成	—	目標 —	—	事業完了 (R7年度)	6,574,370	5,852,940	8,243,224	257,000	課長 3.00人				順調 令和7年度の事業完了に向け、 着実に事業を推進できているた め、「順調」と判断。			
	16	⑪	⑪ ⑬	災害に強くコンパ クトなまちづくり 推進事業	都市 計画 課	平成30年7月豪雨を受 け、市街化区域の斜面地 住宅地や、住宅地となり うる市街化調整区域にお いて、適切な土地利用の 誘導ができるよう、区域 区分の見直しを進める。	区域区分の見直しの 基準を策定する	—	目標 —	区域区分の 見直し基準 の策定	策定完了	4,000	3,974	—	11,650	課長 0.10人						順調 区域区分見直し基準の策定が 完了したため「順調」と判断。	
	17	⑪	⑪	街なか活力向上事 業	都市 計画 課	立地適正化計画、都市 計画マスタープランに基 づき、活力のあるまちを 持続的に育んでいくた め、都市機能誘導区域の 空き地の利用促進を図 る。	都市のスポンジ化に 取り組むモデル地区 を選定して空き地の 利用促進を図る ※中期目標改訂 (R2年度目標設定 時)	—	目標 —	1地区	1地区	2地区 (毎年度)	2,800	3,080	—	9,400							

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
18	⑪	⑪		住むなら北九州 定住・移住推進の 取組み	住宅 計画 課	本市への定住・移住を 推進するため、市外から 移住する世帯等に対し、 一定の要件を満たす街な かの住宅を取得又は賃借 する費用の一部を補助す る。	賃貸住宅補助世帯数 ※中期目標改訂 (R2年度目標設定 時)	47世帯 (H27~ H28年度)	目標 120 世帯 実績 114 世帯 達成率 95.0 %	120 世帯 114 世帯 95.0 %	120世帯 (R2年度 以降毎年 度)	102,300	58,904	54,216	22,875	課長 0.25 人 係長 0.50 人 職員 2.00 人	順調	賃貸住宅補助世帯数、住宅取 得補助世帯数では、概ね目標の 90%を達成していることから 「順調」と判断。			
							住宅取得補助世帯数 ※中期目標改訂 (R2年度目標設定 時)	164世帯 (H27~ H28年度)	目標 100 世帯 実績 107 世帯 達成率 107.0 %	140 世帯 118 世帯 84.3 %	100世帯 (R2年度 以降毎年 度)										

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な目標番号	SDGs 目標番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性				
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
V-1-(1)-② まちづくりと連携した商業機能の活性化	19	⑪	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	環境首都総合交通戦略の推進	都市交通政策課	環境首都総合交通戦略は、本市での望ましい交通体系を構築するため、既存の公共交通機関を有効活用し、その維持や充実・強化を図る。過度なマイカー利用から地球環境にやさしい公共交通や徒歩・自転車への利用転換を図り、市民の多様な移動手段が確保された交通体系を構築することを目指す。	市内の公共交通人口カバー率	基準値 80% (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R2年度)	48,500	30,459	36,750	16,150	課長	0.10 人	順調	交通事業者等と連携し、イベントへの出展や公共交通マップを作成するなど、公共交通利用促進の啓発活動に努めたことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種イベントへの出展及び公共交通マップの作成・更新について、予定通り進めており、まちの賑わいづくりに寄与したことから、「順調」と判断。 【課題】 公共交通の利用促進に向けた更なる啓発活動が必要である。	交通事業者等と連携しながら、まちづくりと一体となった持続可能な市民の足の確保を行うため、公共交通の利用促進に向けた取り組みを継続して実施する。
							市内の公共交通分担率	基準値 20% (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	24% (R2年度)											
							自家用車CO2排出量の削減(H17年度比)	基準値 69.7万t-CO2 (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	6% (R2年度)											
V-1-(2)-① 都心のにぎわいづくり	20	⑪	⑪	小倉駅南口東地区市街地再開発事業	まちなか再生支援課	本市の玄関口である小倉駅の小倉城口にふさわしい都市機能の集積と土地の高度利用を図るため、都市計画道路博労町線の拡幅整備とあわせて市街地再開発事業を行う施行者に対して、事業費の一部を補助し、事業の推進を図る。	保留床として売却する住宅戸数	—	目標 100 戸	実績 119 戸	100 戸	111 戸	100戸 (R1年度)	313,300	520,449	1,178,492	10,650	課長	0.10 人	順調	保留床として売却する住宅及び業務床については、ともに目標値を達成した。 また、予定通り令和元年9月に、施設建築物「ガーデンシティ小倉」が竣工、開業した。本施設の開業により、JR小倉駅前に新たな賑わいを創出しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 成果指標としている保留床として売却する住宅及び業務床については、ともに目標値を達成した。 また、予定通り令和元年9月に、施設建築物「ガーデンシティ小倉」が竣工、開業した。本施設の開業により、JR小倉駅前に新たな賑わいを創出しているため、「順調」と判断。 【課題】 特になし	令和元年度事業完了
							保留床として売却する業務床面積	—	目標 3,000 m ²	実績 3,000 m ²	3,000 m ²	3,020 m ²	3,000m ² (R1年度)											
V-1-(4)-① 省エネルギー(ネガワット)の推進	21	⑦	⑪	住宅街区のスマート化促進事業	都市再生整備課	JR城野駅北側の未利用国有地やUR城野団地を中心とする城野地区(約19ha)において、エコ住宅や創エネ・省エネ設備の設置誘導、エネルギー管理によるエネルギー利用の最適化、公共交通の利用促進など、様々な低炭素技術や方策を総合的に取り入れて、ゼロ・カーボンを目指した住宅街区を整備する。	純増住宅戸数	—	目標 400 戸	実績 509 戸	450 戸	535 戸	550戸 (R3年度)	48,380	25,610	25,236	20,375	課長	0.25 人	順調	純増住宅戸数及び長期優良住宅等の認定件数割合が目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 純増住宅戸数及び長期優良住宅等の認定件数割合は、目標を達成した。 また、低炭素型のまちづくりの誘導に向けて、全ての事業者と事業計画に基づく基本計画協定の締結が完了している。よって、事業全体として「順調」と判断。 【課題】 各事業者と締結した基本協定に基づき、持続可能な低炭素型のまちづくりを誘導する。	各事業者と締結した基本協定に基づき、持続可能な低炭素型のまちづくりを誘導する。
							長期優良住宅等の認定件数の割合	—	目標 100 %	実績 100 %	100 %	100 %	100% (毎年度)											

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要な目標番号	SDGs 目標番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた施策の方向性			
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題		
V-2-(3)-① 公共交通の利便性の向上	22	⑪	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	環境首都総合交通戦略の推進	都 市 交 通 政 策 課	環境首都総合交通戦略は、本市での望ましい交通体系を構築するため、既存の公共交通機関を有効活用し、その維持や充実・強化を図る。過度なマイカー利用から地球環境にやさしい公共交通や徒歩・自転車への利用転換を図り、市民の多様な移動手段が確保された交通体系を構築することを旨とする。	市内の公共交通人口カバー率	基準値 80% (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R2年度)	48,500	30,459	36,750	16,150	課長	0.10 人	順調	交通事業者等と連携し、イベントへの出展や公共交通マップを作成するなど、公共交通利用促進の啓発活動に努めたことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種イベントへの出展及び公共交通マップの作成・更新について、予定通り進めており、まちの賑わいづくりに寄与したことから、「順調」と判断。 【課題】 公共交通の利用促進に向けた更なる啓発活動が必要である。	交通事業者等と連携しながら、公共交通の利用促進に向けた取り組みを継続して実施する。また、超高齢社会に対応するため、高齢者が利用しやすいように施設や車両のバリアフリー化を推進し、公共交通の利用を促すモビリティマネジメント等を行う。		
							市内の公共交通分担率	基準値 20% (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	24% (R2年度)												職員	1.20 人
							自家用車CO2排出量の削減(H17年度比)	基準値 69.7万t-CO2 (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	6% (R2年度)													
V-2-(3)-② おでかけしやすい移動手段の確保	23	⑪	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑬	環境首都総合交通戦略の推進(おでかけ交通事業)	都 市 交 通 政 策 課	おでかけ交通事業は、バス路線廃止地区やバス路線のない高台地区、高齢化率が市の平均を上回る地区などにおいて、地域住民の交通手段を確保するため、採算性の確保を前提として、地域住民、交通事業者、市の三者がそれぞれの役割分担のもとで連携して、マイクロバスやジャンボタクシー等を運行する。	既運行地区におけるおでかけ交通の維持	8ヶ所 (H25年度)	目標 8ヶ所	8ヶ所	8ヶ所 (R2年度)	48,500	30,459	36,750	16,150	課長	0.10 人	順調	三者(地域住民、交通事業者、市)で逐次調整・協議を行い、安定・安全運行の確保に努め、運行の維持ができたので、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 事業者に対して運行に要する費用の一部助成などの側面支援を実施し、安定・安全運行を図ることができたので、「順調」と判断。 【課題】 おでかけ交通を存続させていくため、更なる三者の連携による利用者増を図ることが不可欠である。	おでかけ交通の既運行地区の維持、おでかけ交通の実施地区の拡大、既存バス路線の車両の小型化による維持等のため、事業主体に対する側面支援や利用促進助成を行う。		
								実績 8ヶ所	9ヶ所		職員												1.20 人	
								達成率 100.0%	112.5%															
V-3-(1)-② 都市基盤・施設の適正な維持管理	24	⑪	⑪ ⑫	公共施設予防保全マネジメント推進事業	施設 保 全 課	「北九州市公共施設マネジメント実行計画」に基づき、施設の長寿命化を図るため、計画的な予防保全を推進する。	市有建築物長寿命化計画の推進	—	目標 市有建築物長寿命化計画の推進	市有建築物長寿命化計画の推進	長寿命化計画の推進	2,800	2,403	3,081	61,500	課長	1.00 人	順調	施設の維持保全に必要となる情報を更新し、施設所管課に対して、施設の劣化部位の把握、改修を促す等の技術支援を行うことで、施設の長寿命化に寄与することができたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標通り長寿命化計画を推進することができたため「順調」と判断。 【課題】 長寿命化を推進するために、所管課への助言、指導等を充実させていく必要がある。	市有建築物長寿命化計画に基づき、市有建築物の計画的な予防保全を推進する。		
								実績 —	—		職員												4.00 人	
								達成率 —	—															
V-3-(2)-① 都市基盤・施設の有効活用	25	⑪	⑪	市営住宅既存ストック整備事業	住 宅 備 課 ・ 住 宅 管 理 課	既存の市営住宅の居住水準および安全性を確保する為、住戸のバリアフリー化(すこやか改善事業)や耐震性の低い住棟の耐震改修等を行い、既存ストックの有効活用を図る。	市営住宅のバリアフリー化工事(すこやか改善事業)累計戸数	—	目標 4,625 戸	4,800 戸	5,000戸 (R2年度)	833,151	1,276,588	1,115,018	95,250	課長	0.50 人	順調	バリアフリー化工事件数は目標を下回ったものの、バリアフリー住戸の供給率目標は概ね達成することができた。市営住宅の耐震改修工事については、単年度では目標を下回ったものの(目標:583戸、実績:274戸)、中期目標に向けては、概ね目標を達成することができた。よって、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市営住宅のバリアフリー化、耐震改修工事ともに、成果指標を概ね達成することができたので、「順調」と判断。 【課題】 市営住宅のバリアフリー化工事については、中期目標の達成に向け引き続き事業を推進する必要がある。耐震改修工事については、市営住宅マネジメント実行計画に基づき、耐震改修促進計画の目標達成に向け、引き続き事業を推進する必要がある。	市営住宅を耐用年数まで有効に活用するため、引き続き安全性確保を推進する。		
								実績 4,664 戸	4,777 戸		係長												2.20 人	
								達成率 100.8%	99.5%															
				耐震改修工事累計戸数	6,605戸 (H27年度)	目標 8,335 戸	8,918 戸	9,200戸 (R2年度)																
								実績 8,257 戸	8,531 戸															
								達成率 99.1%	95.7%															

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要な目標番号	SDGs 目標番号	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)		事業評価	評価の理由	R1年度		R3年度予算要求に向けた施策の方向性
							指標名等	現状値(基準値)	H30年度	R1年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)			職位	人数	
VI-2-(1)-① 環境に配慮した良質な住宅・建築ストックの形成	26	⑫	⑫	民間建築物指導業務(CASBEE北九州の普及)	建築指導課	建築物は、エネルギーの消費や廃棄物の発生など、環境に対し様々な影響を与えている。また、地球温暖化対策をはじめとする環境問題に対し、建築分野での取組は大きな役割を担っている。CASBEE北九州(北九州市建築物総合環境性能評価制度)は、延床面積2,000㎡以上の建築物の新築等を行う建築主が建築物の環境性能を自己評価し、その結果を市に届け出る制度であり、この制度の普及により、環境配慮型建築物の整備促進を図る。	北九州市建築物総合環境性能評価制度(CASBEE北九州)の届出件数	15件 (H26年度)	15件	15件	15件 (毎年度)	205	203	183	990	課長	0.01人	大変順調	北九州市建築物総合環境性能評価制度(CASBEE北九州)の届出件数の実績が目標を大きく上回ったので、「大変順調」と判断。	R3年度予算要求に向けた施策の方向性
						実績	17件	25件					係長	0.05人						
						達成率	113.3%	166.7%					職員	0.05人						
VI-2-(1)-① 環境に配慮した良質な住宅・建築ストックの形成	27	⑦	⑦⑪	住宅街区のスマート化促進事業	都市再生整備課	JR城野駅北側の未利用国有地やUR城野団地を中心とする城野地区(約19ha)において、エコ住宅や創エネ・省エネ設備の設置誘導、エネルギーマネジメントによるエネルギー利用の最適化、公共交通の利用促進など、様々な低炭素技術や方策を総合的に取り入れて、ゼロ・カーボンを目指した住宅街区を整備する。	純増住宅戸数	—	400戸	450戸	550戸 (R3年度)	48,380	25,610	25,236	20,375	課長	0.25人	順調	純増住宅戸数及び長期優良住宅等の認定件数割合が目標を達成しているため、「順調」と判断。	R3年度予算要求に向けた施策の方向性
												実績	509戸	535戸						
						達成率	127.3%	118.9%					職員	1.00人						
						長期優良住宅等の認定件数の割合	—	100%	100%	100%										
						実績	100%	100%												
						達成率	100.0%	100.0%												
28	⑪	⑧⑪	住まいの安全安心・流通促進事業	空き活用推進室	耐震性能を有する(又は耐震改修工事を行う)既存住宅を取得・賃借又は相続(生前贈与含む)して自ら居住するために実施する、エコや子育て・高齢化対応に資する改修工事に対してその費用の一部を補助する。	エコや子育て・高齢化対応にかかる改修工事の実施件数 ※中期目標改訂(R2年度目標設定時)	—	130件	130件	100件 (毎年度)	30,000	8,529	6,456	10,900	課長	0.10人	遅れ	制度周知・PRは行ったが、補助対象者・補助対象工事に当てはまるものが少なく、リフォームの実施件数が目標件数に届かなかったため「遅れ」と判断。	R3年度予算要求に向けた施策の方向性	
					実績	29件	32件					係長	0.30人							
					達成率	22.3%	24.6%					職員	0.90人							

令和元年度 行政評価の取組結果(建築都市局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 番号	SDGs 目標 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				R1年度		H30年度	人件費(目安)			R1年度				R3年度予算要求に向けた 施策の方向性			
							指標名等	現状値 (基準値)	H30年度	R1年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題		
VI-2-(1)- ② 環境に配慮した都市基盤・施設の整備・維持管理	29	⑪	③ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	環境首都総合交通戦略の推進	都市交通政策課	環境首都総合交通戦略は、本市での望ましい交通体系を構築するため、既存の公共交通機関を有効活用し、その維持や充実・強化を図る。過度なマイカー利用から地球環境にやさしい公共交通や徒歩・自転車への利用転換を図り、市民の多様な移動手段が確保された交通体系を構築することを目指す。	市内の公共交通人口カバー率	基準値 80% (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R2年度)	48,500	30,459	36,750	16,150	課長	0.10 人	順調	交通事業者等と連携し、イベントへの出展や公共交通マップを作成するなど、公共交通利用促進の啓発活動に努めたことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種イベントへの出展及び公共交通マップの作成・更新について、予定通り進めており、公共交通ネットワークを維持していることから、「順調」と判断。 【課題】 公共交通の利用促進に向けた更なる啓発活動が必要である。	交通事業者等と連携しながら、既存の公共交通ネットワークを維持するために、公共交通の利用促進に向けた取り組みを継続して実施する。		
							市内の公共交通分担率	基準値 20% (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	24% (R2年度)												職員	1.20 人
							自家用車CO2排出量の削減(H17年度比)	基準値 69.7万t-CO2 (H17年度)	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	6% (R2年度)													
VII-3-(2)- ④ 広域連携に資する社会基盤の整備に向けた取組の推進	30	⑨	⑨ ⑪	【施策評価のみ】 下関北九州道路にかかる要望・提案活動の実施	都市交通政策課	【施策の内容】 地域連携に資する社会基盤の整備に向けた取組の一環として、下関北九州道路を推進するため、国や関係機関に対して要望・提案活動を実施する。	【施策の指標】 早期実現のための要望活動を共同で実施	1回 (H28年度)	目標 1 回	1 回	1回 (毎年度)	-	-	-	-	課長	1 人	-	-	大変順調	【評価理由】 国や関係機関に対して、予定を上回る要望・提案活動を実施しており、その結果、国が直轄調査を実施しているため、「大変順調」と判断。 【課題】 下関北九州道路の早期実現に向けて、必要な調査検討を進め、要望に反映させる。	国家プロジェクトとしての下関北九州道路の整備に向け、引き続き、国の直轄調査への協力を行うとともに、要望活動や必要な調査検討に取り組む。		
							実績	3 回	3 回	300.0 %	300.0 %												職員	1 人
							達成率	300.0 %	300.0 %															